

**フェイクニュース！
グローバルな現象としての全能神教会に対し、資源を総動員する中国**

Massimo Introvigne
CESNUR (Center for Studies on New Religions)
maxintrovigne@gmail.com

要旨: 「フェイクニュース」 の概念と定義、および2016年のアメリカ大統領選挙の期間中に台頭してきた背景について、哲学的小よび社会学的な文献が増えつつある。宗教はフェイクニュースの肥沃な土壌であったことは確かで、個人ばかりでなく、公の政府までがそれを吹聴し、認めがたいと考える団体の抑圧を正当化しようとしてきた。中国政府はフェイクニュースを主導しているとして注視されている。邪教（「異端とされた教義」）とレッテルを貼った団体の迫害を正当化しようとしているのだ。本論では、「フェイクニュース」に関して一般的な議論を行うとともに、中国当局が欧米のメディアの助力を得て邪教として追い打ちをかけている組織の一つ、全能神教会の信用を貶めようとして実施している大規模なフェイクニュース運動をどう展開してきたかについて考察する。

キーワード: 全能神教会、邪教、フェイクニュース、フェイクニュースと宗教、中国における信教の自由

「フェイクニュース」の台頭

2017年に実施されたメタ分析によると、虚報や誤報に関する学術研究は約7000存在する（Chan, Jones, Jamieson and Albarracin 2017）。「フェイクニュース」という言葉は、第一次世界大戦中にはすでに使用されていたが、「フェイクニュース」に特化して注目している250ほどの研究は、どれもが2016年以降の研究である。「フェイクニュース」という言葉は、当時、大統領候補だったドナルド・トランプ氏が2016年の大統領選挙活動中（および2017年の最初の大統領記者会見で、）使用してから一般に定着した。またトランプ大統領の国内の支持者と国際的な支援者（つまりロシア）への対応を非難する立場の人々もこの言葉を用いた（Jankowski 2018）。

フェイクニュースという言葉は使用され始めて間もないため、社会科学的研究の大半はフェイクニュースの定義に著しい時間を費やしている (Tandoc, Lim and Ling 2017)。ファーカスとシュー(Farkas and Schou)は、それが「現実的な (real)」意味をもたない「浮動的な記号表現 (floating signifier)」だとする。フェイクニュースとは主に、(a) 主流のリベラルメディア、(b) 西側の保守的なメディアとそれを支えるロシアのプロパガンダ、(c) デジタル資本主義による消費者の印象操作を行う者という、各陣営が論争を巻き起こす目的で用いている (Farkas and Schou 2018)。

このようなアプローチを一方的だと批判する研究者もいる (例えば Jankowski 2018: 251)。論争は過熱するばかりだが、コミュニケーション理論の古典的パラダイムでは、続編の制作 - メッセージ - 受容に基づいてニュースを研究すべきだとされている (McQuail 2010)。我々の行動がどれほどフェイクニュースに基づいて決定されているかを精査すれば、受容の経験的な研究が可能となる (たとえば、Allcott and Gentzkow (2017)は、2016年のアメリカ大統領選挙へのフェイクニュースの影響は最小限にとどまると一蹴したため議論を呼んだ)。

フェイクニュースに最も関心をもつ学問分野は哲学で、哲学者らは、いくつかの定義を提案している。ニール・リーヴィ(Neil Levy)は、

フェイクニュースは誤った主張を表明するものであって、正当なメディアが発する形式や内容に近似する形式と内容を持った情報となるように仕立て上げられたものだとする (Levy 2017: 20)。

レジーナ・リニ(Régina Rini)は次のように考える。

フェイクニュースのストーリーは、現実世界の出来事の説明を目的としている。伝統的なメディア報道のあり方を模倣してはいるが、それを制作する者は著しい虚偽であることを知っており、また人口に膾炙することと、それを聞いた者の一部を騙すことを目指したものである (Rini 2017: E45)。

ベルリン大学の哲学者、アクセル・ゲルフエルト(Axel Gelfert)は、より単純な定義を提案している。

フェイクニュースは、誤解を招く訴えとして設計されたニュースとして、(典型的に) 虚偽または誤解を招く主張を意図的に提示したものである (Gelfert 2018: 108)。

図1は、機能しているさまざまなフェイクニュースを示している。

宗教とフェイクニュース

「フェイクニュース」という言葉が流行する前から、宗教学者は「悪い」宗教に対する噂の広がり方を理解していた。反復と、「権威ある」情報源からの是認によって、信頼されるものになる。1960年代にデイヴィッド・ブリオン・ディヴィス(David Brion Davis)は、19世紀のアメリカにおけるカトリックやその他の少数派の宗教に対して、現在「フェイクニュース」と呼ばれているものの用いられ方を研究した(Davis 1960)。ジム・リチャードソン(Jim Richardson)は、「カルト戦争」などで、広範な「カルト恐怖症」を生み出すのと同じ現象が起こったことに指摘している(Kilbourne and Richardson 1986; Richardson 1978, 1979, 1993)。

伝統的に、「異端」または「カルト」とされた宗教に対する「フェイクニュース」は、世俗的な反宗教活動家や「反カルト派(anti-cultists)」、ライバルの宗教家といった個人の「道徳的な啓蒙家(moral entrepreneurs)」が流布していた。近年、宗教運動に対する「フェイクニュース」が、私人ではなく、公人の手で、はるかに体系化された方法で流布されていく様を目の当たりにしている。ロシアはエホバの証人とサイエントロジーに関するフェイクニュース制作の主導者として登場し、自国での迫害を国際的に正当化しようと試みている。

ロシアと同様、中国にも複数の宗教に対する迫害を国際的に正当化している問題がある。とりわけ邪教として登録され、「擬似宗教」や「カルト」として糾弾されている宗教は深刻な状況にある。邪教に積極的な関わりを持つことは、中華人民共和国の刑法第300条で罰せられる犯罪に該当し、3~7年「以上」の懲役刑に処せられる(国連やウィーンのその他の国際機関に派遣された同国の常設委員会談)。邪教(「邪悪のカルト」は誤訳である)は、「異端の教義」を意味する。邪教のリストは、中国の明朝後期から編纂されてきた(Goossaert and Palmer 2011: 27-31; Palmer 2012)。邪教の定義はあいまいで、実際には公式に邪教リストに掲載された団体のことを指す(Irons 2018)。

全能神教会は、典型的な邪教であると中国共産党は考えている。全能神教会は、1991年に中国で創設されたキリスト教系の新興宗教で、イエスが地球に戻り、全能神として姿を現し、あらゆる真理を説く。全能神は、中国で生まれ、現在はアメリカに住んでいる女性とされ、彼女の発言の大部分は、『言葉は肉において現れる』という本にまとめられている(Introvigne 2017a; Folk 2018)。全能神教会を率い、導いているのは、全能神と認められた人物である。また全能神教会では、全能神が現れた後に、聖霊は趙維山(ジャオ・ウェイシャン)という男性を、「祭司」、「聖霊に使われる者」とし、全能神の具

現代を助け、教会の事務を司る責任を負う者として示されたと考えている。趙維山もアメリカに亡命し、難民として認められている。

中国共産党は全能神教会を仇敵と見ている。実際、全能神教会はキリスト教徒への迫害を糾弾し、中国共産党を『黙示録』中の赤い大きい竜であるとする (Dunn 2008)。しかし、全能神教会の出版物を読むと、赤い大きい竜は自ら滅びるとしているのみであり、革命を呼びかけるような記述はどこにもない (Introvigne 2017a)。

全能神教会は 1995 年以來、邪教リストに掲載されている。全能神教会の統計によれば、現在までにのべ 30 万人以上の全能神教会の信者が中国で逮捕されている。数字の確認は難しいが、中国共産党の文書には全能神教会を糾弾する広範なキャンペーンに関する言及が頻繁にみられる。多くの全能神教会メンバーは拷問を受け、その中には拘留中に非常に疑わしい状況で死亡した者もいるという確かな証拠もある (CAP-LC 他 2018)。

全能神教会に対するフェイクニュース

中国では、邪教に対する誤ったニュースを広める国内プロパガンダ機関が幅をきかせている。中国共産党と直接のつながりを持つ専門警察局 610 弁公室と 2000 年に設立された中国反邪教協会が、その代表である (Irons 2018: 39-41)。このプロパガンダは、おそらく効果的ではあるが、伝統的なソビエト流の偽情報を広める手法を踏襲しているようで、現代のフェイクニュースに典型的に見られる洗練さが欠けている。

誤ったニュースが中国にも海外にも広がっているが、ここでは学術的に定義された「フェイクニュース」に、明確に当てはまる国際的なプロパガンダに焦点を当てよう。2014 年 6 月 16 日に全能神教会が流した文書 (筆者のアーカイブに複製あり) は、中央 610 弁公室の役人の電話会議の内容を書き写したものとされ、中国共産党による、信頼できる反全能神教会偽情報計画を明らかにしている。この文書等で提案されているモデルは、次のとおりである。

1. 610 弁公室と中国反邪教協会がニュースを作成する。
2. 英語の中国メディアがそれを取り上げる (中国共産党の機関紙である人民日報では、あまりにも白々しいので、そうでなくてよい)。
3. 理由は何であれ、北京在住のイギリス人特派員がフェイクニュースを最初に取り上げることが頻繁にある (アメリカ人やフランス人ではない)。欧米の報道のほとんどは、BBC とテレグラフ紙の 2 つに遡ることができる。

4. なぜならこの2つのメディアは権威があり Google 検索で上位に来るためである。Wikipedia に大々的に引用されることで、フェイクニュースは数千の海外メディアに広がっていく（国によっては、中国当局の直接的な助けを時折借りている）。

事例 1：マクドナルド殺人事件

偶然ではないにしても、意図的な計画に従って、流された文書と思えば、反全能神教会 フェイクニュースの権現と呼べるのは、2014 年に招遠市のマクドナルドで起きた女性殺害事件だろう。殺人事件は、残念ながら実際に起きたのだが、フェイクニュースであるのは、全能神教会がこの事件の犯人に仕立て上げられた部分にある。

邪教と全能神教会の概念について議論するため、2017 年に鄭州と香港で 2 つの会議が開かれた。筆者は中国反邪教協会から欧米の新宗教と全能神教会の専門家として招かれた一団の一員である。中国の政府系メディアも認めているように（KKNews 2017）、筆者は先入観を持たずに出席した。

しかし中国の同当局による文書に基づき、マクドナルド殺人事件は、全能神教会と名称は類似しているが、無関係の別の宗教運動による犯行と、筆者は結論付けた。その団体が崇拝していたのは異なる全能神で、呂迎春（ル・インチュン）と張帆（チャン・ファン）という 2 人の女性リーダー（1984～2015）に宿るとされた神であった（Introigne 2017b）。この文書について研究した他の研究者も筆者の結論に同意した（Introigne and Bromley 2017 参照）。

殺人犯による声明は、疑う余地のないものである。呂迎春は裁判で以下のよう述べている。

張帆と私は本物の「全能神」の専属スポークスマンである。政府は趙維山が信じる「全能神」を糾弾しているが、ここで言及している「全能神」ではない。それは虚偽の「全能神」で、私たちが本当の「全能神」なのだ（Beijing News 2014）。

また張帆はインタビューで、「全能神教会と接触したことは一度もない」と語っている（Phoenix Satellite TV 2014）。

しかし事件の数日後、中国メディア（人民日報を含む）が、全能神教会による犯行とした。意気揚々として BBC が（Gracie 2014）、続いてテレグラフ紙が（Moore 2014）、北京の特派員を通じて、この内容を取り上げた。

2017年11月に行った調査によると、その時までには2万を超える欧米メディアが殺人を全能神教会による犯行としていた。

2017年に学術論文が出版され、この問題は収束するはずであった。けれども中国共産党はマクドナルド事件を定期的に蒸し返そうと躍起になった。張帆は2015年に処刑されたが、呂迎春は刑務所に収監されていた。張帆の妹、張航(チャン・ハン)も殺人事件の共謀者として有罪判決を受けた。張航は公判中、「敬虔に信じていたわけではない」(Beijing News 2014)と述べ、前述のように呂迎春は自分たちと全能神教会との関係を強く否定した。中国メディアは、彼女らが獄中で正常に「再教育」され、邪教批判を競う大会に参加し、刑罰を減刑する賞を受賞したと報じた(China News 2017)。また「再教育」されたことを証明するため、2人の女性は、全能神教会の聖書を読んだことがきっかけで墮落したと宣言した。しかし、長期の刑務所での拘束にもかかわらず、張航は、神は姉と呂迎春の姿を借りて地球に舞い戻った、というのが2人の信念だったと主張した(Kaiwind Net 2016)。これは全能神教会の教義とは全く異なる。2018年後半には全能神教会への迫害が激化し、大量に逮捕者が出る一方で、中国共産党はBBCや他の欧米メディアを信頼できる情報源として引き合いに出して、殺人の濡れ衣を全能神教会に着せようと未だに奮闘している(China Anti-xie jiao Website 2018)。最初にそのフェイクニュースを流したのは、中国共産党であることを忘却してしまったかのようだ。これは「フェイクニュースに関してフェイクニュース」を出したという興味深い事例で、数年経った後も、中国共産党は迫害を正当化するために依然としてマクドナルド殺人事件を引き合いに出す必要性を感じていることを示しているといえる。

事例2：郭斌のストーリー

反全能神教会 フェイクニュースの次の事例は、2013年に中国の山西省で全能神教会の信者が6歳の少年の目をえぐったというニュースだ。中国で2017年に開かれた反全能神教会会議に招待された欧米の研究者の1人であるホリー・フォーク(Holly Folk)は、関連文書を調査し、その犯行は少年の伯母によってなされたもので、全能神教会は何の関係もないと結論付けた。教会に対する告発は、警察の捜査が終了した数か月後、マクドナルド殺人事件が勃発した後に、初めて中国の反カルト家によって広められた(Folk 2017)。

フォークは、犯罪を全能神教会になすりつけるニュースを最初に流したのは、中国の2つの反カルトウェブサイトと現在は廃刊した台湾の中国共産党系日刊紙、ウォント・チャイナ・タイムズ(Want China Times)であったと示唆してい

る。香港のジャーナリスト、ブレンドン・ホン(Brendon Hong)はその話を流出させた人物と関係を持っており、欧米のメディアに流した人物である (Folk 2017: 100)。

事例 3 : 2012 年に世界が終焉すると予言？

全能神教会は 2012 年に世界の終焉を予言し、中国で騒動を扇動したと非難するフェイクニュースが広がった。しかし、全能神教会の教義には世界の終焉というものではなく（むしろ世界の変容）、聖書で予言されている災難は、全能神が地上における使命を果たした後に起きるものだとする。その全能神は、2012 年の時点でも地上だった。

他の多くの中国人と同様に、中国の全能神教会の信者の一部は、2012 年に世界の終わりを告げる、いわゆるマヤの預言に関心を示し、この理論を伝道的手段に利用しようとした人もいた。しかし、そのような信者は指導者から叱責を受け、多くは追放された (Dunn 2015: 95)。趙維山は、「私たちは世界の終わりを告げて回ることはしません。(中略) 世界が終わるなどとする理論は誤りです」(The Church of Almighty God 2012b) と語っている。

のぼりとパンフレットが、中国反邪教協会をはじめとする中国の情報源から欧米のメディアや研究者に提供され、全能神教会が 2012 年に世界の終わりを宣言していたと「証明」してみせた。しかし、パンフレット（複製は、CESNUR のアーカイブにあり）では、題名こそ『2012 年の後の最後のチケット：大災難の中で救いを得よ』としているが、実際に世界の終わりについて言及している箇所はない。情報が虚偽でなければ、このパンフレットは趙維山の警告を無視した反体制派により制作されたもので、そのような信者は発見され次第、速やかに追放された。

オーストラリアの研究者エミリー・ダン(Emily Dunn)は、全能神教会が過去に頒布したことがある別のパンフレットにも同じ箱舟の絵が掲載されており、問題のパンフレットは本物である可能性がある、とした (Dunn 2016: 219)。しかし、後者の「全能神教会—最後の箱舟」では、2012 年に関する言及はなく、世界の終焉を告げる理論についても何も言及していない(The Church of Almighty God 2012a)。

事例 4：「改宗させた者に金銭を渡す全能神教会」

フェイクニュースの第 4 の事例は、「[全能神教会の]信者は 1 人を改宗させるごとに 20,000 元（約 33 万円）を受け取り」、その代わりに、新規に入会した信者は「2,000 元（約 3.3 万円）の会費」を支払わされ、全能神教会のパンフレットの購入にさらなる金銭が求められる、というものである（Mintz 2014）。残念なことに、このことがヨーロッパで全能神教会の難民による亡命申請を却下する決定をくだす上で影響を与えた（Home Office 2017 参照）。

以下に署名する者や他の研究者がインタビューした全能神教会の信者は、これは事実ではないと強く主張した。改宗者の数を考えると、改宗するごとに金銭を支払っていたら、世界で最も裕福な宗教団体でさえも一気に破産に追い込まれると言う。また教会の信者に会費を請求することも一切ない、と言う。パンフレットについては、全能神教会の規則により、「全能神教会の信者たちは、神の言葉に関する書籍、霊的な書籍、オーディオとビデオなどの制作物はすべて無償で享受できる」ことになっている」（The Church of Almighty God 2017）。

全能神教会のように大きな組織では、献金が必要であるのは明らかだ。しかし、全能神教会の『原則』（Principles）では、その額は個人で大きく異なっていてよいとしている。「10%の献金を訴える人もいますが、金銭面以外にもさまざまな形で貢献している人がいます。自らの意思で提供されるものである限り、神は喜んで受け入れます。入信して 1 年未満の信者は一時的に献金が免除されますが、貧しい人々は献金する必要もなく、信心に従って献金すればよいのです。教会は家庭の不和につながる可能性がある献金は受け取りません。献金する人は、何度も祈りを捧げる必要があります。完全に自らの意思で、絶対に後悔することがないと確信できた人だけが、献金することができます」（The Church of Almighty God 2003）。

この信用を貶めるような情報は、2014 年にニューズウィークに関連するインターナショナル・ビジネス・タイムズが広めた（Mintz 2014）。この記事は、中国の体制の機関紙である人民日報に掲載された、マクドナルド事件後の全能神教会に対する長々とした告発リストに大部分が基づいている（またその記事の言葉を引用している）（人民日報 2014）。

事例 5：全能神教会に拉致された福音派のリーダー

全能神教会に対するほとんどのフェイクニュースは中国共産党が作成しているが、他にも全能神教会の驚異的な成長は福音派の犠牲の上でなしえたものだ

という事実に当惑する福音派に由来するものもある。この事例では、中国の福音派から海外の福音派へと、当初は中国共産党の協力なしにニュースが伝播した。中国共産党は最近になって、この事例が欧米の研究者の食指を動かすことに気づき、反全能神教会プロパガンダリストの一項目に加えたのだ。

キリスト教徒で全能神教会に反感を持つ人の一部は、2002年に全能神教会がキリスト教の家庭教会の大きな一派である中華福音団契の34人の牧師と幹部指導者を誘拐したと主張している。しかし、資料を精査すると、この話も大部分は信頼に足るとは言いがたい (Introvigne 2018)。

この話は、福音派の小説の題材としては素晴らしい資料ではあり、実際に取り上げられている (Flinchbaugh 2006; Shen and Bach 2017)。後者は自ら犠牲者であると主張する信者の1人と共著した小説であるが、次の点については信憑性に欠けている。

(a) 全能神教会は、中国の警察に搜索されていた、大規模な誘拐を敢行できた。

(b) 当時迫害を受け、地下で活動していた中華福音団契は、キリスト教のセミナーに招待した者の個人情報を検証しなかった。

(c) 事件の通報を受けたにもかかわらず、中国の警察は誰も逮捕しなかった。

事実、中華福音団契の指導者が、全能神教会の信者が招待したトレーニングに足を運んでいた可能性は捨てきれない。全能神教会が教会の名前をすぐに伝えなかったのは、詐欺だとも解釈できるが、迫害を受けていた状況を考えると、その説明がつくともいえる。そして、「カルトに誘拐された」というありがちな誘拐事件に仕立て上げられたが、言葉の意味からも法的な意味合いでも、実際に誘拐は起きてはいなかったのだ。

事例6：2017年の国際キャンペーン

流出した文書には、中国の宣伝手法として、法輪功のときにある程度成功したように、全能神教会に対して懐疑的な欧米の研究者を呼び込むように工夫すること、とある。これはおそらく、筆者が2017年に中国に招待された理由の1つであろう。

しかし、これは逆効果となり、全能神教会に同情を寄せる前例を見ない量の学術的な研究が行われることになった。中国に招かれた3人の研究者は、全能神教会に関する虚偽の情報を修正するように宣誓または上申する書面に署名した。

全能神教会に対抗するために研究者を招集したことが、見事に失敗したことは、2017年の後半にフェイクニュースの新しいキャンペーンが大々的に始まったことと恐らく無関係ではない。反全能神教会の最初の会議は、2017年6月23~27日に、河南省で開催された。中国共産党の意図としては、この会議を開催することで、迫害に関する国際的で学術的な正当性を示すはずだったが、そうはならなかった。しかし、いつものジャーナリズムとのつながりは健在だったようだ。2017年7月初旬、浙江省で約600人の全能神教会メンバーが逮捕された。中国の政府系メディアは、2017年7月25日になってようやく、全能神教会の信者18人のみが逮捕されたと報道した。7月27日、いつものBBCとテレグラフ紙（BBC News 2017; Connor 2017）を含む複数の海外メディアの北京特派員が逮捕について報道し、全能神教会が犯したとされる犯罪に関して、広がっていた話を取り上げ、複数のメディアは2012年の世界の終焉に関する騒動について言及した。筆者が2017年7月27~29日にかけて報道されたすべての英語の記事に目を通したところが、そのどれもがマクドナルド殺人事件の責任を全能神教会に押し付けていることが判明した。

時系列でたどると、逮捕を初めに報道したのは新華社通信で（新華社2017）、それに続いたのは第六声（Sixth Tone）である（Lam 2017）。これは、フォーリン・ポリシー誌から「見栄えが良く、魅力的なウェブサイトと、欧米の読者の関心を引くような見出しを特徴とする、[中国共産]党監修の持ち上げられたばかりのメディア」とされている（Allen-Ebrahimian 2016）。その後、中国のプロパガンダの情報源特別な関係を持っているかのような常連メディア、BBCとテレグラフ紙が報道し、この2社の報道に大きく依存している数多のメディアが追随した。

反全能神教会の第2回会議は、2017年9月15~16日にかけて香港で開催された。ここでも、反全能神教会キャンペーンに関して国際的な研究者から支持を得ることに失敗した。筆者は欧米側の参加者として出席していたが、その参加者全員が会議の「結論」を含む「最終文書」への署名を拒否した。筆者は、反全能神教会に対するメディアキャンペーンが、会議の結果と直接関係しているとまでは言わない。けれども、期待された学術的な支援が得られなかった事実が、中国当局によるいつものメディアの橋渡しを通じた新たな反全能神教会キャンペーンに拍車をかけた要因の一つであったことは十分に考えられる。他の要因としては、中国の2つの会議に参加した研究者には、韓国やその他の国で亡命を希望する全能神教会信者が中国による迫害を非難する上申書に署名した者や、全能神教会難民を支援する、国連等の国際的な催し物で講演をしたことがある者も含まれていたことが挙げられよう。たとえば、2017年10月27日、筆者は、複数のNGOがソウルで企画した、韓国の全能神教会難民の状況について話し合う催し物に登壇した。

2日後の10月30日、韓国の日刊紙、済州日報は、全能神教会難民を非難する社説を出した（済州日報 2017）。情報源の一部は、韓国の複数の都市で反全能神教会の街頭デモを組織した韓国の中華系雑誌の代表者、オウ・ミョンオクから来たものだ。デモの参加者はほんの一握りだったが、複数の韓国メディアで報道され、常套の告発が繰り返された。翌月、香港で北京政府を代表する機関が所有する香港の日刊紙、大公報は、全能神教会を狙い撃ちにした15の記事を公表した（Ta Kung Pao 2017 等参照）。そのコメントのいくつかは中国の同機関が所有する香港の別の日刊紙、Wen Wei Paoでも報道され、また（興味深いことに）台湾国営中央通訊社でも取り上げられた（Wen Wei Po 2017; 国営中央通訊社 2017）。韓国の全能神教会の難民に対する批判と同様、ここでも、2012年の世界の終焉の予言とマクドナルド殺人事件が引き合いに出されていた。

結論：フェイクニュース、変装した祝福？

2018年は、2014年や2017年前半とは様子が異なる年だった。目を追うごとに、全能神教会に対する公平な報道が学術的な専門誌や質の高いメディアによってなされるようになり、必然的にウィキペディアにも記載されるようになった。イタリアのある裁判では、マクドナルド殺人事件の罪を全能神教会に着せようとする試みは、「体制が全能神教会の信用を貶めるように作り上げたフェイクニュース」であるとされた（Tribunale di Perugia 2018）。

これはフェイクニュースの一部の研究者が提供する楽観的なコメントへの追認かもしれないが、「フェイクニュースは、ジャーナリズムで起こった最高の出来事」とされ、多くの人々が情報源をより批判的に確認する大切さを学んだ（Beckett 2017）。これは、メディアが「カルト」と呼ぶ団体を報道するときに必ずしも当てはまるわけではない。しかし、全能神教会に関する限り、状況は幾分改善されてきている。一握りの学者や人権活動家、弁護士が、中国のプロパガンダに立ち向かう姿は、あたかもゴリアテに立ち向かうダビデといった印象を受けるだろう。しかし、ゴリアテは確実に地に膝をつきつつあり、フェイクニュースとの戦いは無謀ではないことを証明している。

参考文献

Allcott, Hunt, and Matthew Gentzkow. 2017. "Social Media and Fake News in the 2016 Election." *Journal of Economic Perspectives* 31(2):211–36.

- Allen-Ebrahimian, Bethany. 2016. "China, Explained." *Foreign Policy*, June 3. Accessed April 27, 2018. <https://bit.ly/2FPy54a>.
- Bakir, Vian, and Andrew McStay. 2017. "Fake News and the Economy of Emotions: Problems, Causes, Solutions." *Digital Journalism* 6(2):154–75. DOI: 10.1080/21670811.2017.1345645.
- BBC News. 2017. "Chinese Police Detain 'Female Jesus Cult' Members." July 27. Accessed April 27, 2018. <https://bbc.in/2GtoSvn>.
- Beijing News. 2014. "山东招远血案被告自白：我就是神" (山東省招遠市の殺人事件の被告の告白：「私は神そのものだ」). August 22. Compiled by Yang Feng. Accessed August 8, 2018. <https://bit.ly/2W7izUq>.
- Beckett, Charlie. 2017. "'Fake News': The Best Thing That's Happened to Journalism." *Polis: Journalism and Society at the LSE*, March 11. Accessed June 9, 2018. <https://bit.ly/2GCzLw3>.
- CAP-LC (Coordination des associations et des particuliers pour la liberté de conscience) and others. 2018. "Universal Periodic Review, China. Religious Freedom and Persecution in China: The Case of The Church of Almighty God." Submission to the United Nations' Human Rights Council. Copy in the archives of CESNUR (Center for Studies on New Religion), Torino, Italy.
- Central News Agency (Taiwan). 2017. "港媒：受陸禁教派 在港招攬大陸新移民" (香港メディア：中国本土で禁止されたセクトが今、本土から香港への移民を勧誘している). November 20. Accessed April 27, 2018. <http://www.cna.com.tw/news/acn/201711200058-1.aspx>.
- Chan, Man-pui Sally, Christopher R. Jones, Kathleen Hall-Jamieson, and Dolores Albarracín. 2017. "Debunking: A Meta-Analysis of the Psychological Efficacy of Messages Countering Misinformation." *Psychological Science* 28(11):1531–46. DOI: 10.1177/0956797617714579.
- China Anti- Xie Jiao Website. 2018. "境外主要媒体关注中国依法处决招远邪教杀人案主犯" (海外の主要メディアが憂う、法律に基づき中国で処刑された招遠市のカルト教団のリーダー). May 22. Accessed August 7, 2018. <https://bit.ly/2ACpsnL>.
- China News. 2017. "招远麦当劳杀人案女犯忏悔记：两年写几万字揭批材料" (招遠市マクドナルド殺人事件の主犯格の告白：2年間で何万字にのぼる啓示と批判の資料を編纂). Sourced from *China Youth Daily*. May 26. Accessed August 7, 2018. <https://bit.ly/2QtW90o>.
- Connor, Neil. 2017. "China Detains 18 Members of 'Cult' Which Believes Jesus Was Reincarnated as a Woman." *The Telegraph*, July 27. Accessed April 28, 2018. <https://bit.ly/2DPdv18>.

- Davis, David Brion. 1960. "Some Themes of Counter-Subversion: An Analysis of Anti-Masonic, Anti-Catholic, and Anti-Mormon Literature." *Mississippi Valley Historical Review* 47(2):205–24. DOI: 10.2307/1891707.
- Dunn, Emily. 2008. "The Big Red Dragon and Indigenizations of Christianity in China." *East Asian History* 36:73–85. <https://bit.ly/2CoGcR2>.
- Dunn, Emily. 2015. *Lightning from the East: Heterodoxy and Christianity in Contemporary China*. Leiden: Brill.
- Dunn, Emily. 2018. "Quánnéngshén Jiàohuì (Dōngfāng Shǎndiàn)." In *Handbook of East Asian New Religious Movements*, edited by Lukas Pokorny and Franz Winter, 504–23. Leiden: Brill.
- Farkas, Johan, and Jannick Schou. 2018. "Fake News as a Floating Signifier: Hegemony, Antagonism, and the Politics of Falsehood." *Javnost – The Public: Journal of the European Institute for Communication and Culture* 25(3):298–314.
- Flinchbaugh, C. Hope. 2006. *Across the China Sky*. Minneapolis: Bethany House.
- Folk, Holly. 2017. "'Cult Crimes' and Fake News: Eye-Gouging in Shanxi." *The Journal of CESNUR* 1(2):96–109. DOI: 10.26338/tjoc.2017.1.2.5.
- Folk, Holly. 2018. "Protestant Continuities in The Church of Almighty God." *The Journal of CESNUR* 2(1):58–77. DOI: 10.26338/tjoc.2018.2.1.4.
- Gelfert, Axel. 2018. "Fake News: A Definition." *Informal Logic* 38(1):84–117. DOI: 10.22329/il.v38i1.5068.
- Goossaert, Vincent, and David A. Palmer. 2011. *The Religious Question in Modern China*. Chicago and London: University of Chicago Press.
- Gracie, Carrie. 2014. "The Chinese Cult That Kills 'Demons.'" BBC News. August 13. Accessed April 11, 2018. <https://bbc.in/2ZxU19R>.
- Home Office. 2017. "Asylum Decision L145517." February 24. Copy in the archives of CESNUR (Center for Studies on New Religion), Torino, Italy.
- Introvigne, Massimo. 2017a. "Church of Almighty God." *Profiles of Millenarian & Apocalyptic Movements*. CenSAMB (Center for the Critical Study of Apocalyptic and Millenarian Movements). Accessed June 9, 2018. <https://censamm.org/resources/profiles/church-of-almighty-god>.
- Introvigne, Massimo. 2017b. "'Cruel Killing, Brutal Killing, Kill the Beast': Investigating the 2014 McDonald's 'Cult Murder' in Zhaoyuan." *The Journal of CESNUR* 1(1):61–73. DOI: 10.26338/tjoc.2017.1.1.6.
- Introvigne, Massimo. 2018. "Captivity Narratives: Did The Church of Almighty God Kidnap 34 Evangelical Pastors in 2002?" *The Journal of CESNUR* 2(1): 100–10. DOI: 10.26338/tjoc.2018.2.1.6.

- Introvigne, Massimo, and David Bromley. 2017. "The Lü Yingchun/Zhang Fan Group." *World Religions and Spirituality Project*, October 16. Accessed June 9, 2018. <https://wrldrels.org/2017/10/16/lu-yingchun-zhang-fan-group>.
- Irons, Edward. 2018. "The List: The Evolution of China's List of Illegal and Evil Cults." *The Journal of CESNUR* 2(1): 33–57. DOI: 10.26338/tjoc.2018.2.1.3.
- Jankowski, Nicholas W. 2018. "Researching Fake News: A Selective Examination of Empirical Studies." *Javnost—The Public: Journal of the European Institute for Communication and Culture* 25(1–2):248–55. DOI: 10.1080/13183222.2018.1418964.
- Jeju Ilbo. 2017. "中 全能新교 신도 제주로 유입...난민신청 쇄도." (全能新教会の信者、難民認定のために済州に集まる). October 30. Accessed April 27, 2018. <http://www.jejuilbo.net/news/articleView.html?idxno=65496>.
- Kaiwind Net. 2016. "山东招远麦当劳杀人案行凶者的狱中忏悔" (山東省招遠市のマクドナルド殺人事件で投獄されている殺人者による後悔の告白). May 28. Accessed August 7, 2018. <https://bit.ly/2Q4RfHV>.
- Kilbourne, Brock K., and James T. Richardson. 1986. "Cultphobia." *Thought: Fordham University Quarterly* 61(2):258–66. DOI: 10.5840/thought19866126.
- KKNews. 2017. "「反邪動態」美國、義大利專家赴鄭州進行反邪教學術交流" (反カルト：米国とイタリアの専門家が反カルトの学术交流のために鄭州に行く). July 11. Accessed June 9, 2018. <https://kknews.cc/society/rrr2m8o.html>.
- Lam, Nuala Gathercole. 2017. "Police Arrest Disciples of Chinese Female Jesus." *Sixth Tone*, July 26. Accessed April 27, 2018. <https://bit.ly/2FRbHYd>.
- Levy, Neil. 2017. "The Bad News About Fake News." *Social Epistemology Review and Reply Collective* 6(8):20–36. <https://bit.ly/2XDt8iY>.
- Ma, Xingrui. 2014. "马兴瑞同志在省委防范和处理邪教问题领导小组全体成员会议上的讲话" (馬興瑞同志が省の 610 弁公室の全体会議でメンバーに語った話). Reproduced on the Web site of the Association for the Protection of Human Rights and Religious Freedom. <https://bit.ly/2rcdooK>.
- McQuail, Denis. 2010. *McQuail's Mass Communication Theory*. 6th ed. London: SAGE.
- Mintz, Zoe. 2014. "China's Cult Crackdown: What Is The Church Of Almighty God?" *International Business Times*, December 10. Accessed June 9, 2018. <https://bit.ly/1zw69St>.

- Moore, Malcolm. 2014. "China Puts Five Cult Members on Trial for McDonald's Murder." *The Telegraph*, August 21. Accessed June 9, 2018. <https://bit.ly/2TVpqD1>.
- Palmer, David Alexander. 2012. "Heretical Doctrines, Reactionary Secret Societies, Evil Cults: Labelling Heterodoxy in 20th-Century China." In *Chinese Religiosities: The Vicissitudes of Modernity and State Formation*, edited by Mayfair Yang, 113–34. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- People's Daily. 2014. "Inside China's 'Eastern Lightning' Cult." June 3. Accessed June 9, 2018. <https://bit.ly/2nymjgh>.
- Permanent Mission of the People's Republic of China to the United Nations and Other International Organizations in Vienna. n.d. "Criminal Law of the People's Republic of China." Accessed April 11, 2018. <https://bit.ly/2vlBesc>.
- Phoenix Satellite TV. 2014. "社会能见度 审判“全能神” (社会の目：全能神に対する審判)". August 21. Accessed August 22, 2017. <https://bit.ly/2XTXq1H>.
- Richardson, James T. 1978. "An Oppositional and General Conceptualization of Cult." *Annual Review of the Social Sciences of Religion* 2:29–52.
- Richardson, James T. 1979. "From Cult to Sect: Creative Eclecticism in New Religious Movements." *The Pacific Sociological Review* 22(2):139–66. DOI: 10.2307/1388875.
- Richardson, James T. 1993. "Definitions of Cult: From Sociological-Technical to Popular-Negative." *Review of Religious Research* 34(4):348–56. DOI: 10.2307/3511972.
- Rini, Regina. 2017. "Fake News and Partisan Epistemology." *Kennedy Institute of Ethics Journal* 27(2): E43–E64. DOI: 10.1353/ken.2017.0025.
- Shen, Xiaoming, and Eugene Bach. 2017. *Kidnapped by a Cult: A Pastor's Stand Against a Murderous Sect*. New Kensington, Pennsylvania: Whitaker House.
- Ta Kung Pao. 2017. "深度調査|邪教“全能神” 蠱惑新移民婦再煽末日" (邪教の「全能神」に対する精査:移民の女性をけしかけて再び最後の審判を宣告させる). November 20. Accessed April 27, 2018. <http://news.takungpao.com.hk/hkol/topnews/2017-11/3516795.html>.
- Tandoc, Edson C., Jr., Zheng Wei Lim, and Richard Ling. 2017. "Defining 'Fake News.'" *Digital Journalism* 6(2):137–53. DOI: 10.1080/21670811.2017.1360143.
- The Church of Almighty God. 2003. "Principles for Establishing a Church and Managing Church Life." August 2. In *Selected Annals of the Work*

- Arrangements of The Church of Almighty God*. Accessed June 14, 2018. <https://en.godfootsteps.org/principles-for-establishing-a-church.html>.
- The Church of Almighty God. 2012a. *The Church of Almighty God—The Last Ark*. n.p.: The Church of Almighty God.
- The Church of Almighty God. 2012b. “给各地教会神选民的一封信。” (神が選びしすべての教会の信者たちへの手紙). December 16. Accessed June 6, 2018. <https://www.hidden-advent.org/inst/20121216.html>.
- The Church of Almighty God. 2017. “Declaration Concerning Websites Imitating The Church of Almighty God.” February 24. Accessed April 10, 2018. <https://www.holyspiritspeaks.org/solemn-declaration>.
- Tribunale di Perugia. 2018. “Ordinanza 264/2018.” May 25. Accessed June 6, 2018. <https://bit.ly/2ZqghSV>.
- Wardle, Claire. 2017. “Fake News, It’s Complicated.” *First Draft News*, February 16. Accessed June 9, 2018. <https://bit.ly/2HRc2HJ>.
- Wen Wei Po. 2017. “邪教攻港 「全能神」 蠱惑新移民婦再煽末日” (邪教が香港を攻撃する - 移民の女性をけしかけて再び最後の審判を宣告させる). Accessed April 27, 2018. <https://bit.ly/2LVf5nj>.
- Xinhua. 2017. “18 Detained in Connection with Cult Activities.” July 26. Accessed April 27, 2018. <https://bit.ly/2Q6300M>.